

2019. 3. 22

平成 30 年度 上小圏域障がい者自立支援協議会

## 医的ケア児(者)支援検討委員会 年度報告

テーマ	<p>【医的ケア児（在宅への退院者等）の課題検討と整理（2年目）】</p> <p>(ア) 医ケア児者の相談拠点と連携方法の周知活動（県立こども病院等への説明）</p> <p>(イ) 医ケア児者の支援リーフレット（上小版）の完成</p> <p>(ウ) 重症心身障害児者等コーディネーター事前研修企画と養成研修への受講</p> <p>(エ) 医的ケア児（呼吸器装着児童）の単独通学課題整理と今後に向けての提案</p> <p>※ 医ケア児者と家族の社会参加への協力</p>
-----	---

開催実施月

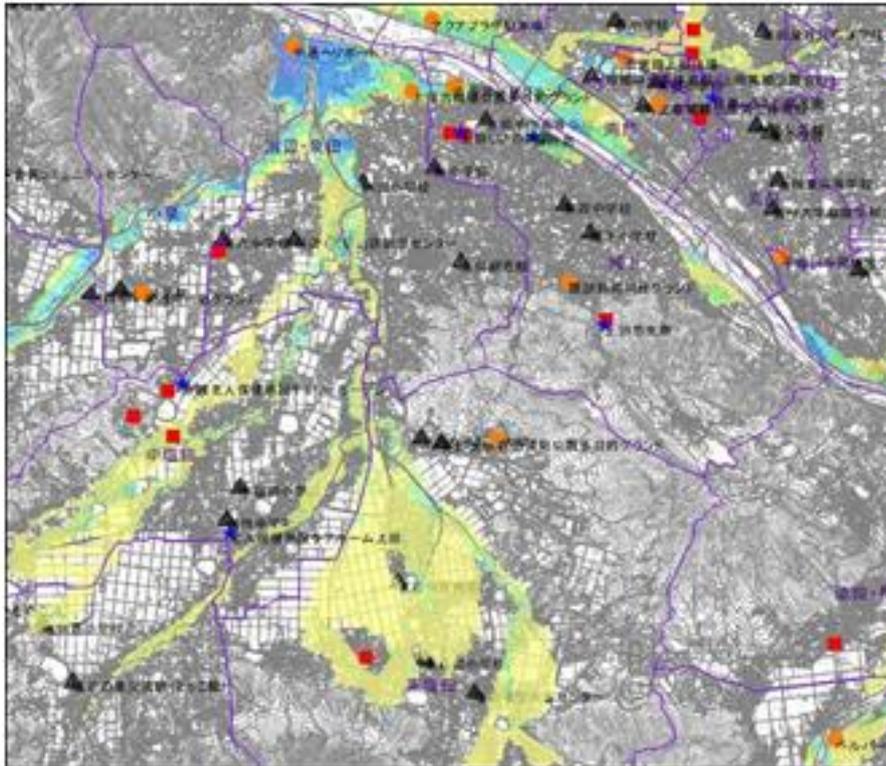
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

回/日付	内容/場所/時間
第1回 5月23日	<p>平成30年度事業計画（案）の検討と平成29年度実践の共有</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平成29年度 委員会内容の共有</li> <li>平成30年度 事業計画(案)の検討・確認</li> <li>ディズニーパレードの企画報告</li> <li>リーフレットの執筆協力依頼</li> <li>情報提供 重心コーディネーター研修前、上小圏域研修の企画案内</li> </ol> <p><b>上小圏域 第5期障害福祉計画の推進研修</b></p> <p>【地域で暮らす医療的ケア児等への看護職と福祉の現状と今後の展望】 ～平成30年度の同時改定から見た連携のネットワーク・人づくりのへの期待～</p> <p>講師：淑徳大学 看護栄養学部 谷口 由紀子氏 日時：平成30年7月4日(水) 13:00～16:30 参加者 福祉従事者20名 医療従事者10名 福祉用具業者1名 行政職員19名 事務局 10名（合計 60名） <b>※宮城県アドバイザーモデル研修への受講2名</b></p>
第2回 9月12日	<ol style="list-style-type: none"> <li>上小圏域内、医ケア児在宅支援における単独通学課題の事例検討（2グループ） 事例1～2. 現在の通学課題への取り組み （現在の課題に対して、一歩前に進めそうなアイデアを考えてみましょう。） ※学校保健法と医療保険の整理をすることが、必要な状況にあることは浮彫となる。</li> <li>リーフレットたたき台の検討・完成へのスケジュールと医療機関への周知方法の検討</li> <li>チーム支援の現状での課題や情報交換（全体）</li> </ol>
第3回 2月18日	<ol style="list-style-type: none"> <li>リーフレット完成後の周知方法及び実践に向けた検討（成果物パンフの添付）</li> <li>年度活動の報告並びに上小圏域の医ケア児等への支援実態の情報交換</li> <li>医療的ケア児等コーディネーター次年度実践研修構想並びに圏域課題の集約</li> </ol>

考察 ・ 次年度に 向けて	<p>本年度は、長野県内の基幹病院へのアウトリーチ・チーム体制として、実践モデルとすべく検討を重ね、成果物として圏域の医療的ケア児（者）への応援パンフレットの完成をみる事が出来ました。これは、圏域内での支援機関の共通の意思決定チーム支援への第一歩であり、また県内の基幹病院との関係強化と上小圏域としての受け皿とその方法を理解してもらう目的で作成しました。次年度は、パンフレットの説明も含め病院訪問を事務局としても実施するなど、具体的な実践へと繋げて行きたいと思ひます。また、この体制を維持・強化するために連携して地域移行支援体制を構築と医療的ケア児等コーディネーターの機能強化に向けて、圏域での研修強化と連携に努めて行ければと思ひます。今後、委員会としては、継続的な協議を続け保育所・学校など、在宅ケアと共に、日中の支援場所での医療的ケアへの課題と応援の方法も県として行ければと思ひます。</p>
------------------------	--

# 重症心身障がい児（者）データー

## 【防災対策含めた行政データー】



■	対象者
●	災害用ヘリポート
☆	福祉避難所
▲	応急避難所
黄色	浸水想定0.5m未満
緑色	浸水想定0.5m～1.0m未満
水色	浸水想定1.0m～2.0m未満
黄色	浸水想定2.0m～3.0m未満
赤色	浸水想定3.0m以上

左図は上図中で導入している地図情報システム上の例になります。

この図を使用してー

- ①災害発生時に対象者・対象者が罹災している可能性があるかを把握することができる。
- ②避難所の関係の除、緊急時の避難をイメージしながら把握することができる。
- ③どのような危険が起これる可能性があるかを事前把握し、事前の支援に生かしていくことができる。

この冊を色々と活用しながら、今後重度心身障がいのための本格的な運用は状況度から決まるといいたいと考えています。

年1回 8月データー更新

氏名	性別	生年月日	年齢	知的	身障	所属先	療養介護施設入所	共同生活援助	重度包括支援	重度訪問介護	生活介護	居宅介護	短期入所
----	----	------	----	----	----	-----	----------	--------	--------	--------	------	------	------

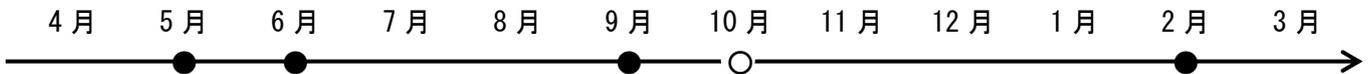
行動支援	児童発達支援	障害型児童発達支援	放課後等デイ	移動支援	日中一時	相談支援事業所	訪問看護事業所	学校・通園	区保機関	入院	在宅	区ケア	疾患名	〒	住所	保護者	自治会	地区	電話番号	家族構成	備考	

## 令和元年度 上小圏域障がい者自立支援協議会

## 医療的ケア児(者)支援検討委員会 年度計画

テーマ	(ア) 医ケア児者の支援体制（パンフレット）の周知活動及び実践による課題整理 (イ) 医療的ケア児者コーディネーター・スキルアップ研修企画・運営（夕方～夜） (ウ) 医的ケア児（呼吸器装着児童）の単独通学課題に向けた訪問看護と教育連携モデル実践と振り返り (エ) 医療的ケア児と親との合同支援会議（仮称：名称募集） ※特別支援学校の訪問学級・菜の花学級の紹介や意見交換ができる方法の検討
上小圏域第5期障害福祉計画 重点施策の該当項目	
医療的ケアが必要な児童の地域移行支援モデルと地域支援体制を明確化します。	

## 開催月



回/日付	内容/場所/時間
第1回 5月13日 (10～12)	テーマ：令和元年度事業計画（案）の検討と平成30年度実践の共有  1. 平成30年度 委員会内容とパンフレットの完成報告及び周知に向けて 2. 令和元年度 事業計画(案)の検討 3. 平成30年度の実践に伴う課題や本人・家族の意向及び課題の共有 4. 医療的ケア児等コーディネーター研修の感想 5. 医療的ケア児等コーディネーター・スキルアップ研修企画について 6. 委員会の開催方法（3～4グループ編成での意見交換を作る） 7. 委員構成の再編
第2回 6月26日	テーマ 1. 医的ケア児（呼吸器装着児童）の単独通学課題に向けた訪問看護と教育連携へのモデル実践の調整 ※特別支援学校の訪問学級・菜の花学級の紹介や意見交換 2. 医療的ケア児と親との合同支援会議（仮称：名称募集）
第3回 9月日	テーマ 1. 訪問看護と教育連携へのモデル実践と振り返り 2. 医療的ケア児と親との合同支援会議
第4回 調整中 (夕方～)	テーマ 1. (前半) 医師を交えた意見交換会 (後半) 医療的ケア児等コーディネーター・スキルアップ研修 2. 研修会の開催予定（医療的ケア児への発達支援のアプローチ（ICFの理解） 場所：医療センター・調整中（予定）
第5回 2月17日	テーマ：令和元年度委員会の振り返り